

新庁舎建設候補地に関する説明会（平成 29 年 4 月 23 日開催）

質問の要旨とその回答

Q 1 立地選定について

現在地を離れない方が良いのではないかと。従来からの環境やインフラも整備されているので、現在地などの中心市街地周辺が良いのではないかと。

逆に、昔から津波災害の歴史もあるのだから、安全な場所という意味では、今回の候補地は良い場所ではないかと。対照的な意見がそれぞれ出ましたがいかがでしょうか。

A 1 津波に対して旧町内が守られていないのではないかと、市役所だけが安全な所に行くのかという質問ですが、津波対策については、県が中心になって行っている防潮堤整備など旧町内の方々と話し合いを進めているところです。避難路につきましても、春日山遊歩道の整備など進めており、市役所だけ安全な所に行くということではありません。

また、現在地が良いのではないかとという意見ですが、最悪の場合を想定するというのは、津波被害だと思えます。現在地は、6 m 程度の津波が来ることが予想されています。まず津波に耐えられるかということもありますが、三陸の津波の映像を見た方はわかると思いますが、その後も瓦礫が打ち寄せて町中が瓦礫でいっぱいになります。仮に市役所が残っても孤立してしまい、救援部隊とも連絡が取れない、市民も市役所に近づけないということが予想されます。

緊急防災・減災事業債が使えないということもありますが、緊急時には物理的に市役所としての機能を果たせないことが予想されます。まずは、安全な所で災害が起きても強靱ですぐに対処できる場所を選定すべきということで候補地を選定しました。

また、市役所が無くなることで、旧町内の経済性が悪くなるのではないかとということですが、跡地の活用によって、市役所があった時よりももっと旧町内が活性化できるような利用ができるのではないかと考えています。これから検討委員会を組織して考えていきたいと思えます。

現在地の優位性についての質問もありましたが、従来からの環境についても考えなければなりません、それ以上に将来の市全体の健全性も考えなければならないと思えます。そういう意味でも安全な場所に建てる必要があると考えています。

Q 2 費用について

事業費については前回も出た質問ですが、今回は意見が分かれています、プレハブ工法はどうするのか、安くするにはどうするのかという質問と、安いばかりでも困るの

ではないかという意見です。安全でしっかりとしたものを作る必要があるのではないかとことです。

- A 2 まず、安く建設するという事は必ずやらなければならないと考えています。プレハブでやるのかどうかということ言えば、プレハブ工法で建てることを公約にしているわけではないが、安く建てるということは常々考えています。

これから審議会委員の方たちで基本計画について審議していただくわけですが、その中でも安く建てるということと、建物の耐用年数はどの程度あるのかということも考えていかなければなりません。審議会委員には専門家もいるので、十分に審議していただいて適切な建物にしたいと考えています。プレハブ工法もひとつの候補として挙げるべきだと考えています。また、地元の木材を使って建てるということも非常に大きな選択肢だと思います。地元産材を使うことはシンボルにもなることから、幅をもって審議会委員さんに審議していただくということを期待しています。

- Q 3 里山の整備について

賛成意見も多くいただいておりますが、その中でも提案として、海に面しており、避難路としての山道整備や里山整備を考えていくべき。庁舎の建物だけではなく、地域全体で安全というものを考えていくべきというご意見です。

- A 3 下田の特性として、山が海岸近くまで迫っています。そういう面からも、海岸からすぐに山に避難できる避難経路や避難場所というのは、これからもっともっと整備していきたいと考えております。経路の表示についても夜間対応なども考えていきたいと思っております。市が主体となって実施しますが、自主防災会や消防団など地元の方々の協力が不可欠です。これからも様々な団体の協力を得ながら進めていきたいと考えています。

また、避難の切っ掛けも耳で聞くだけではなく、視覚的にもわかるように旗をあげるとかそういうことも考えていきたいと思っております。